



「首相も天皇も靖国参拝を」

天照大神が降臨し、すべての日本国民にメッセージ



先の大戦の英霊たちが祀られている靖国神社

「日本は植民地を解放した

救世の国だった」

参院選で自民党が圧勝した。だが、安倍首相は人気取りに走り、中国や韓国、北朝鮮などの圧力の中で、「河野・村山談話を踏襲する」など弱腰の姿勢を取っている。果たして日本はこのまま、中国などの軍事的脅威に対抗できるのか？

大川隆法・幸福の科学グループ創始者兼総裁は23日、日本神道の主宰神である天照大神を招霊した。天照大神は、日本人が戦後「心の廢墟」から立ち直れず、神仏への信仰心を取り戻せないでいるため、内憂外患、様々な国難が今後も襲ってくることを警告。特に歴史認識の歪みによって、靖国神社に首相や天皇陛下が参拝できない現状を憂えた。これは、全国民に発せられた、日本の神からのメッセージである。

「安倍首相は今秋から行き詰る。自民党でもこの国はもたない」

天照大神はまず、安倍晋三首相に対して、「信仰心は30パーセント持っていない」と認めたものの、「国民の票を集めることが権力の発生源と考えていて、神仏の心を受け取り、実行に移そうとする考えがない」と苦言を呈した。

そのため安倍政権は「秋から行き詰る」と指摘。その理由として、「消費税上げの問題と社会福祉の問題、この国の将来の経済構造の問題」から始まり、「歴史認識」「靖

「日本人よ、誇りと信仰心を取り戻せ」

天照大神が特に強調したのは、「自虐史観の払拭」だった。

「先の大戦で敗れたしたが、日本がしようにとしたことは、500年間続いた白人優位の思想による有色人種迫害の思想を打ち砕くという目的が入っていた」「アジア・アフリカで唯一、立ち向かったのは日本なのだ。日本そのものが実は救世の国であったのだ」「国民が自らそれを否定するのであれば、もはや救いようがない」と、日本国民全体が、先の大戦の意義を見直し、誇りと信仰心を取り戻すことを呼びかけた。

天照大神は、天皇陛下の「祖神」としても、はっきりとアドバイスをした。「なぜ、中国や韓国に気兼ねして、日本国民に選ばれ

国参拝」「中国、韓国との関係、アメリカとの板挟み」などで苦しみだそうと語った。また憲法改正についても「強行しようとするれば、人氣が落ちることを恐れている」ため、「行き詰るでしょう」と予言した。

さらに、「自民党でも民主党でもこの国はもたない」ということが、分かるようになるところまで、状況は切迫してくる」と、今回の国民の選択に対する国難が迫っていることを断言した。

た首相が、靖国神社に参拝することさえできないのですか。その足を引っ張っているのが日本のテレビや新聞ではないですか」「首相だけでは足りず、天皇陛下もきちんと靖国神社に行って、先の大戦で亡くなった英霊の人々に対して、心からの感謝の思いを伝えるべきであると思います」

そして、このような誇りと信仰心を日本人が取り戻さなければ、「外国による侵略、国内における自然災害、食糧危機、水の危機」など、様々な国難が神罰として今後襲ってくることを警告した。

日本建国の神であり、この小さな島国をずっと守ってくださった天照大神の再三にわたるメッセージを、日本国民はしっかりと受け止めるべきだろう。

「ザ・リバティweb」(無料記事)

でレポートが読めます。

⇒ the-liberty.com



『天照大神の未来記』—この国と世界をどうされたいのか—の映像は、

幸福の科学の支部・精舎で7月24日から、どなたでも拝聴できます。

さらに8月上旬には全国書店で緊急発刊されます